

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	読む力、書く力の獲得と定着
目標（評価規準）	楽しさの中で言葉と接する機会が増える	
重点に係る現状 設定理由	○児童が授業の中で学んだ文字や言葉の定着に課題がある。 ○学習内容と生活が結びつく機会や日常的に文字や言葉に触れる機会を増やしていく必要がある。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○概ね児童は授業に前向きに取り組んでいる。 ○学習内容と生活とのつながりにはまだ課題があると感じている。 ○全校での読書への取り組みが進み、児童が読書を通して楽しく言葉に接する機会が増えてきている。
各アンケート等の結果	○児童アンケートからは授業に対しての学習への高い意欲や、やる気ある様子が感じられる。 ○児童、保護者共に基礎・基本の習得については、前向きに取り組んでいるものの定着には課題があるととらえている割合が多い。 ○児童、保護者共に学習内容が社会とつながるような実感を持っている割合は少ない。 ○学習に自信を持ってない児童が一定数いる。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○学ぶ意欲の高さを感じている割合の児童と保護者の差から、児童の意欲が学校内にとどまっていることを感じさせる。学びが学校の外に広がるような取り組みが必要と考える。 ○基礎・基本に自信が持ち切れていない点については、家庭学習も含め常に基礎・基本に立ち返る学習を心がけていくことが大切と考える。 ○読書活動に全校で取り組んだことにより、特に低学年を中心に自然に本を手にする機会が増えてきている。好きな本や、本の説明を意欲的にする児童も増えてきていることから、この取り組みをさらに進めていきたいと考える。 ○児童が書いた文章を友達と楽しく共有できる機会を増やすなどの工夫が少しずつ成果につながっている。継続して取り組んでいきたい。 ○学びに対して自信を持ってない児童に対しては、個別対応を含めてスモールステップでわかることを増やしていけるような取り組みを重ねる必要がある。
学校関係者評価結果	○少ない職員で児童をよく見てくれている。 ○読む力、書く力の獲得や定着については時間がかかると思うが、粘り強く取り組んでもらいたい。 ○人数が少ないからこそそのメリットを活かした授業づくりを進めてもらいたい。
最終改善方策	○引き続き、児童ができるだけ楽しさの中で文字や言葉に触れる機会を増やしていく。 ○授業での学習内容が生活と結びつくことで、児童の意欲が高まるような工夫を継続して行う。 ○校内研究で進めている「魅力ある授業づくり」をさらに深めていく。 ○統合や閉校に伴う取り組みを授業の中に取り込み、より児童が実感を伴うような授業づくりを目指す。

本年度の重点	2	自己表現力と互いを認める関係づくり
目標（評価規準）	活動を段階ごとに評価し、児童の成長を見極める	
重点に係る現状 設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ○社会性を育てる観点からの活動の目標や評価を明確にし、段階的な成長を促す必要性がある。 ○統合を見越して、地域や南下浦小学校とのつながりが広がり深まるようにしていく必要がある。 	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<ul style="list-style-type: none"> ○人とかかわる力、集団と関わる力、社会とかかわる力それぞれ全体的には育ってきているがまだ改善の余地は多いととらえている。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣についてはできているととらえている児童と、まだまだととらえている保護者のとらえに少し差がある。 ○協力することについては多くの児童が肯定的にとらえている様子がうかがえる。その一方で自分から発信するようなかかわり方についてはまだ自信が持てていない様子もうかがえる。 ○社会とかかわりについては児童保護者共にここ数年の中で最も多く肯定的な回答が得られている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的には概ね取り組みが順調に進んでいる。 ○基本的な生活習慣については、家庭で安心して家族に任せている様子が感じられ、その中で自分ができることを率先して行う力を家庭と協力しながら育てていく必要があると考える。 ○自分からの発信に自信が持てていない児童が一定数いることについて、教師からの具体的な評価や仲間からの励ましの場面などをさらに意図的に作っていく必要性を感じている。 ○社会とかかわりについては、体験の中で感じる機会とその意味を理解させていくことが大切であると再認識することができた。 ○南下浦小学校との交流により、児童が人との関わりの広がりを実感することができている。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ○概ね良好である。 ○便利な世の中ではあるが、小学校時代に人と直接かかわる機会を多く持たせ心を育ててもらいたい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○人と関わる、集団と関わる体験をより一層多く取り入れ、丁寧に社会性を育てていく。 ○自分からの発信、表現に自信が持てるよう評価や仲間づくりの改善に取り組む。 ○統合を活用し、児童が関わりの広がりに対して意欲を持てるように取り組む。

本年度の重点	3	主体性につながる指導
目標（評価規準）	活動の中に児童が主体性を発揮できる場面を位置づける	
重点に係る現状 設定理由	<p>○それぞれの活動に一生懸命取り組む一方で、自ら考えて判断し主体的に行動する力にはまだ課題がある。</p> <p>○活動の中に意図的に主体性を活かす場面を取り入れるながら、力を伸ばしていきたい。</p>	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<p>○全般的には、主体性が少しずつではあるが育ってきていると感じている。</p> <p>○主体性を育てるための視点を活動の中に取り組む工夫をしている様子が伝わってくる。</p>
各アンケート等の結果	<p>○主体性が身につけている様子を感じている児童、保護者が増えてきている。</p> <p>○その一方でまだまだ見についていないと感じている保護者も一定数ある。</p>
自己評価結果 （見解と改善方策）	<p>○新型コロナウイルスへの対応が変更になり、児童の活動の幅が広がったことで学校では児童が主体的に活動できる取り組みを増やしてきた。</p> <p>○児童、保護者共にそのことを実感している。</p> <p>○今後さらに、児童が自ら考え判断して行動できるような活動を増やしていくと共に、その評価を適正に行うことで児童の自信につなげていきたい。</p> <p>○さらに、「言われて行動」「言われたとおりに行動」からの脱却を心がけていきたい。</p> <p>○段階が必要であったり時間がかかったりすることも踏まえ、粘り強い取り組みが必要であると考え</p>
学校関係者評価結果	<p>○概ね良好と考える。</p> <p>○さらに児童が自分の道を自分で切り開いていけるよう指導していただきたい。</p>
最終改善方策	<p>○活動の結果よりも過程を大切にす取り組みを行っていく。</p> <p>○途中段階での評価を丁寧に行うと共に、評価の視点について研究を進めていく。</p>